

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201446		
法人名	有限会社 コンフォール		
事業所名	グループホーム こんふおーる		
所在地	札幌市北区新川西3条3丁目12番15号		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	平成23年10月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201446&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201446&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲山が一望でき、季節ごとの景色が見られる。又、ホーム裏には畑があり、苗の成長過程や収穫を楽しんでいる。毎月行事があり、外食・外出行事を楽しんでいる。御家族様へも参加を呼び掛け入居者様と御家族様との楽しいひと時を過ぎて頂いている。天気の良い日は裏の駐車場にてバーベキューを行ったり、散歩などに出掛けている。ケアに対しては、御本人様にとってより良いケアを行えるよう都度話し合いを行いスタッフ一丸となりケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、1ユニットと小規模ながら、代表者、管理者そしてスタッフ全員が、運営理念の実践とスタッフの心構えに真剣に立ち向かう様子が垣間見えます。ホームの優れている点は、一つ目には、利用者の自立への支援を基盤とした健康管理があげられ、スタッフのチームワークが強固なものと観えます。二つ目には、OJT(企業内研修システム)です。勉強会と称しており、スタッフ間で自主的な問題提示を予め明確にして、スタッフ全員が参加、勉強できることです。中には運営に係る提言もあり、同席の管理者はあくまで聞き役に徹するなど、スタッフの熱意を大切にしています。三つ目は、ヒヤリハットへの対応です。発生した場合、スタッフで構成している「改善検討委員会」を即座に開催し、ヒヤリの原因追及と改善に向けた話し合いが行われています。四つ目には、災害対策で消防署の大きな理解の下、細やかな配慮が見られます。近くの消防団員との連携など、緊急時には大きな頼りとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念は職員が確認できる所として玄関に貼ってあり、理念をもとに日々対応することで、理念の実践を心掛けている。	パンフレットは、在庫の関係で従来のものを使用していますが、管理者ならびにスタッフ全員が、地域密着型サービスの意義を十分に踏まえて、理念の実践に向けた熱い行動をみることが出来ます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への挨拶は日常的に行っている。又、畑での野菜栽培時には、近所の方から助言を頂いている。運営推進会議を通し、町内会長初め他の方々との交流、情報交換等行っている。	代表者は、隣接のデイサービスの経営とともに、グループホーム利用者の地域との繋がりを重視しながら、地域の一員としての交流に日々努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて認知症の支援の方法等は今現在ないが、今後機会があれば検討する。運営推進会議で、認知症、グループホームの理解を地域の方にして頂けるよう話をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開いている。ホームの状況等の報告を行い、参加者から良い意見を得る事も多く、サービス向上に生かしている。	前回の評価の課題でもありましたメンバーの拡大は、町内会の福祉部長、消防署の職員を加えるなど、会議の内容も大きく充実されています。今後も会議の効果を図るため、メンバーの柔軟な充足に取り組もうとしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と常日頃から情報を共有し、必要時すぐに連絡を取り合えるようにしている。	市の担当窓口とは、利用者の利便と生活の安定のため、情報の収集、共有を図っています。また、問題解決のため、地域包括支援センター職員と協働体制で臨むなど、連携が深まっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束をしないケアについて理解を深めており、全職員が身体拘束をしないケアを実施している。又、外部での研修に参加し理解を深め実践に取り組んでいる。	スタッフ中心の勉強会では、身体拘束のないサービスの充実を常にテーマとしながら、疑問解決のための討論が重ねられており、ケアに活かされています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会や外部研修にて学んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等を通じて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず入居者様、御家族様と面接し、不安や疑問等を聞き、契約時に説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケア、面会時、ケアプラン説明時等にも要望や意見を聞き、ケアプランや日々のケアに反映させている。又、玄関には意見箱を設置している。	家族からの意見や要望などを、ホーム運営に役立てようとする管理者の前向きな姿勢が視えます。家族の面会時、電話の会話など、あらゆる機会を捉えて意見や要望を聞くように努めていますが、「こんふおーる便り」の内容を充実しながら、ホームとしての情報発信を図ろうとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、日々の業務の中で管理者とスタッフの個人面談を実施し、意見や提案を協議した上反映させている。	職員が主体となって行われる定例の勉強会では、予め各スタッフが、討議を希望する課題が出され、スタッフ全員が問題意識を持ち、熱心に討議されています。運営に関する意見や課題解決のための討議も多く、代表者及び管理者も参加しながら、運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人に役割があり、必要時個人面談を行うなどをし一人一人が向上心を持って働けるよう努めている。又、スタッフの悩みにも耳を傾け、働きやすい環境に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期勉強会の開催や外部研修への参加を行い、一人一人のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や研修会の参加 他のグループホームとの相互見学も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や電話、面談時等で表情・仕草・話し方などを見て、困っている事、不安な事求めている事などを聞き出し、傾聴・受容し不安なく安心できる関係づくりに努めている。又、生活環境の情報等を元にケアプランに立案し、日常生活が不安定にならない様に心掛けている。何かあれば職員間で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や電話、面談時等で表情・仕草・話し方などを見て、困っている事、不安な事求めている事などを聞き出し、傾聴・受容し不安なく安心できる関係づくりに努めている。又、要望・不安があれば職員間でも話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居だけが解決策ではないので、御本人様・後家族様の悩み等を再度問う。アセスメントを行い、出来る事、出来ない事を見極め自立支援に向けてケアプランを作成し、状態に応じ他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が主体となるような行事や日常生活を行っている。一緒に作業をし、喜びを共有したりしお互いに支えあう関係を築いている。一方的なケアは行わず要望を聞き話し合いをし、出来るだけ過ごしやすい様な環境を作れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの参加時は御家族様に協力してもらったり、御本人様と一緒に楽しむ機会を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪・電話・手紙等関係が途切れないよう支援している。又、馴染みの場所に外出したりしている。	ホームでは、家族や友人の訪問、また電話、手紙など、これまで培ってきた馴染みの関係を大切に支援しています。家族の協力を得ながら、墓参りやドライブなど、ホーム生活の中に馴染みの関係を取り入れながら、潤いのある暮らしを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や散歩など、気の合う者同士行動できる様、全スタッフで話し合う場合もある。会話が苦手な方にはスタッフが間に入り会話をつなげたり、お互いの関係が築けるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談が来た場合は応じている。又、必要な場合には情報提供を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアや会話の中、又はケアプラン説明時に聞きだしたりと把握に努め、ケアプランに生かし実施している。困難時は御本人様の思いをくみ取ったり、御家族様の意見も合わせて検討している。	スタッフは、日常の暮らしの中から利用者の小さな仕草にも配慮して、意向や思いの把握に努め、スタッフ全員で共有を図ることとしています。また、把握が困難な場合は、家族からの情報を大切にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や情報、御本人様・御家族様との会話をもとに生活歴や馴染みの暮らし方、入居するまでの経過等把握し、全スタッフで周知している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々出来る事、出来ない事を見極め自立支援に努めている。又、常に心身の状態観察も行って、「いつもと違う」と感じた時はバイタル測定する等早期発見・早期対応に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前やケアプラン説明時に希望や意向を聞き取り、希望や意向に基づき御本人様の状態を合わせスタッフ間でアセスメント、モニタリングし現状に即した介護計画を作成し実施している。モニタリングは全スタッフで行っているも、御本人様・御家族様の参加はない。	日常的なアセスメントとモニタリングが行われ、気付きなどを全スタッフが共有しており、特別なカンファレンスは設けていません。また、入居前には利用者や家族の意見を十分に聞きながら、介護計画が作成されており、それらの経過は家族に伝え、見直しの是非を検討しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、身体面や精神面も記録している。申し送り時や連絡ノート等にてスタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しにも反映し、統一したケア、実践に生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様のニーズ把握に努めており、ニーズに合った対応を検討し、柔軟に対応できる様に取り組んでいる。又、共同生活において個々のニーズに対応できない事もあり、その際は話し合いの場を設け対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練については半年に一度消防署の立会いのもと実施しており、安全に生活できるよう取り組んでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関の往診、必要時受診をしている。入居前から通院している他院については、スタッフ対応や家族の協力にて通院できるよう支援している。主治医へ報告・連絡・相談も行っている。	協力医療機関とは日常的な連携が良く取れています。毎月1度の往診により、利用者の健康状態を把握しており、家族からも安心と信頼が寄せられています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力機関の月に一度の往診時又は、必要に応じてその都度報告・連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関はもちろんの事、他院についても情報交換や相談を行うとともに、スタッフ間でも退院後のケアを話し合い、早期退院出来る様になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時、御本人様、御家族様、協力機関、スタッフ間等で話し合い、事業所で出来る事などを話し合い支援をおこなう	利用者が、重度化した場合におけるホームの対応について指針が作成されており、入居の際には、家族などに十分な説明が行われ同意を得ています。看取りの実例はありませんが、それに至るケアは、医師、家族、スタッフとの協議を重ねて行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、自己学習、研修に参加したり、救急救命講習を行ったりして身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度避難訓練を行い、全スタッフが避難場所、誘導の仕方を理解している。又、ミーティングでも話し合っている。	消防署の協力の下、年2回の昼夜を想定した避難訓練が行われています。また非常時への対応として、食料、備品を確保しています。近隣住民の方々には、機会を捉えて協力要請をしていますが、緊急時の住民の方々への協力のためのマニュアルがありません。	消防関係の大きな協力が得られていますが、地域住民の方々の協力をお願いするには、しっかりとしたマニュアルが必要と思慮します。「緊急時にはこの場面、この部分の協力・・・」と明示したマニュアル作りを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃意識してケアを行っている。	スタッフは、利用者一人ひとりの性格や日々の体調に配慮しながら、優しい言葉かけで対応しています。居間で寛ぐ時、また居室でもプライバシーに配慮した生活支援が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で足りない物や欲しい物等ある時は、スタッフと一緒に買い物に行き、御本人様の必要な物を自己決定できるよう支援している。又、毎日おやつ時間に一人一人に飲み物を選んで頂き、毎日、自己決定の機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の入居者様のペースに合わせて外出、レクなどを行っている。又、自室で過ごされる際もテレビ、ラジオ等自分で決め楽しめる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでもらったり、買い物で服を買ったり等、その人に合った支援をしている。(顔剃り等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けの色合いの工夫やトレーを使用し配膳する事で見た目も良く、入居者様も下膳、食器拭き等も一緒に行っている。	食後の下膳や食器拭きなど、できる作業は利用者に参加して頂いています。スタッフが作る献立、料理は家族の好評を得ています。今回の外部評価調査日には「敬労会」と銘打った食事会が行われ、代表者が自ら握る寿司に利用者のほころぶ笑顔が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等は毎日記録に残し、個々にあった食事量などで支援している。又、メニューを作成する場合は、栄養バランスを考え作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。個々の状況に合わせて一部介助等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な場合を除きオムツを使用しない支援をしている。排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを理解した上で支援している	他の老人施設や病院から来た利用者は、比較的オムツ常用が多いため、ホームでは、できるだけオムツをしない暮らしをして頂くよう、毎日の排泄パターンを把握しながら、自立に向けたケアと支援が行われており、オムツ使用の軽減にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳の提供、毎身体操を行っている。又、個々に応じた声掛けや、対応により予防できている部分もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、他に入浴希望があれば希望に添っての入浴は行える。又、個々に合った声掛けの工夫や、タイミングを計っている。	入浴は週2回を設定していますが、利用者の体調、また希望に沿った入浴支援が行われています。全介助を要する利用者も多い中、スタッフの懸命な支援が継続されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中リビングで過ごす方が多いが、自室で休む、テレビを見る等で自室で休息する事もある。又、身体状況に応じた休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤明けのスタッフが、処方箋を確認しながら薬をセットしている。又、症状の変化があれば主治医に報告・連絡・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の力を活かした役割や、散歩・趣味活動、外食等気分転換の支援をしている。誕生会などは、誕生者が食べたい物や好きなものなどを作り、提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出行事企画し、楽しく出掛けられるよう支援している。又、御家族様へ呼びかけ一緒に参加して頂くなど協力を得ている。	好天時には、近くの公園散歩や買い物へ出かけます。毎月1度は少し遠方へのドライブなど、外出企画を立てながら、ホームでの閉じこもり防止と気分転換に配慮しています。家族にも呼びかけ参加を求めるなど、交流を兼ねた支援を目指しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと不安という方に関しては、紛失しても支障のない額を御家族様と相談の上本人持ちにしている。買い物に行く際はスタッフが付き添う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は御本人様の状態に合わせて支援している。手紙が読めない等はスタッフが代わりに読む等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快のない様掃除は徹底し、室内には観葉植物を設置したり、玄関には季節の花や物を置いている。	1・2階とも2箇所のトイレが備えられています。廊下や居間、食堂も清掃が行き届いて、清潔感が漂い、居心地の良い共有空間となっています。2階への階段も手すりによるリハビリに適しており、これからも沢山の利用が望まれます。室温や湿度も適切に管理され、温かく柔らかな秋の日差しがホーム全体を包んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に座席にしたり、会話しながらビデオを見てゆっくり過ごしたり等と意思を尊重している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の使用していたもの、馴染みの物を持ってきて頂き、家庭と同じように居心地良く過ごせるよう対応している。	馴染みの家具などの持ち込みは、利用者の状況により差はありますが、ゆったりとしたスペースの中、安心した暮らしの継続が可能な空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1,2階の共用スペースには手すり、バリアフリーとなっている。事故につながる様な物は置かず、環境整備している。なるべく個人個人出来る事はして頂き、常にそれが安全である様見守りや設定し、自立した生活が送れる様支援している。		